

りんご研究所 ニュース

No. 104
2024. 12. 24

イタリア南チロルの りんご生産事情！

去る九月二三日～二九日にかけて、栽培部の小林達主任研究員が県職員等とともにイタリア南チロルにて、産地の状況や高密度栽培、農業機械について調査をしましたので、その概要をお知らせします。



アルプスの溪谷に高密度栽培園が広がる

一九九三年にEUが発足したことに伴い、南チロルのりんごは転機を迎えました。一九七〇年以前は大樹仕立てで単収は十アール当たり約二トン、ヨーロッパ全体が生産過剰で非常に経営が苦しく、また家族経営で栽培面積は五ヘクタール未満が大半を占めていた中、農家所得を上げるために取り組まれたのが高密度栽培と新品種の導入でした。



この取組が進んだ現在、単収が二～三倍となり、生産性が向上したことから低い単価であっても所得の向上に成功しています。生産性向上の手段は高密度栽培に加え、機械の全面的な導入もあります。摘果や葉摘み、収穫とあらゆる作業が機械化され、ハシゴを使うことは全くないとのことでした。



高所作業台車

(日本のとはまるで違う機械)

また驚くことにほとんどの生産者が作業機械一式を所有しています。作業機械の多くはトラクターのアタッチメントとなっており、また作業機械に複数の機能(左写真参照)を持たせていることも注目されます。



除草剤散布機能付草刈機



牽引式の薬剤散布機

さらに驚くことは葉摘みの機械が実用化されていたことです。仕組みは不明ですが円形ファンからの風圧(衝撃波?)により葉を落としていきます(多くはちぎれている)。また落果や傷はほぼないようでした(続く)。



葉摘みの機械

(トラクターのアタッチメント)

令和六年度県りんご品評会の審査

去る十一月二七日に、青森県りんご品評会審査を行いました。審査は、予備審査、第一次審査及び第二次審査を所長、研究管理監、栽培部長、品種開発部長、病害虫管理部長と各部研究員が行い、最終審査は審査長である所長が上位の順位付けと優賞を決定しました。出品点数は団体の部が一〇三点、個人の部が四〇六点、葉とらずふじの部が六五点の合計五七四点でした。予備審査はりんご協会職員が良食味の観点から一定の糖度で線引きをします。次に第一次審査では、決められ



りんご研職員とりんご協会職員・支会員

た重さの範囲内にあるか、形状・玉揃い、色調・色沢、地色、病害虫被害の有無、障害の程度などを総合して銅賞の決定と銀賞以上の候補を選びます。さらに第二次審査では、銀賞・金賞を決定し、金賞から各地区の上位を選び、採点しました。また葉とらずふじでは通常の審査項目に加え、葉形の有無とその程度を総合的に判断します。最後の最終審査において、審査長が決めるという流れになっています。このように多くの段階を経て、優賞の栄冠を手にするのです。立木品評会の審査でも思いましたが、開花期の授粉環境が芳しくなかったことから斜形果など形状の不揃いや、秋の高温による着色不良などが懸念されたものの見事に果実を揃えて出品された皆さまには敬意を表したいと思います。加えて、令和七年度も素晴らしいりんごができるよう期待するところ です。

今年も献上りんごの時期となりました。

今年もりんご研究所産のふじと王林を天皇皇后陛下下、上皇皇后陛下下、秋篠宮皇嗣殿下、常陸宮殿下、三笠宮家、寛仁親王妃殿下、高円宮妃殿下に

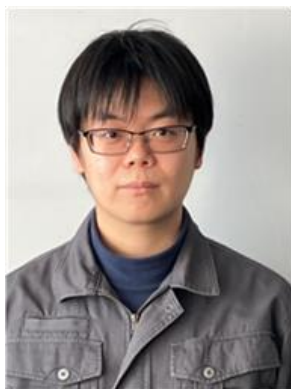


薄葉紙
(うすようし)

対し献上する時期を迎えました。献上りんごは昭和三年から始まり、数回の中止を挟んで平成へと受け継がれ、本年まで続き、八十回目を迎える伝統かつ名譽ある行事となっています。今回はこの献上りんごの選果と包装、箱詰め、発送の各作業をどのように行なっているのかを紹介します。今年はおよそ十万個の収穫果から選果し、一つ一つガーゼで丁寧に磨き上げた後に、薄葉紙(うすようし)で包み、果実キャップを被せます。きれいに包装されたりんごは、白化粧箱に二段詰めにされ、白手袋のりんご研究所職員にトラックに乗せられ、いざ東京へという運びで献上されます。栄えある伝統行事であり、青森りんごのPRにもなるので、できるだけ長く続けたいと思っています。

病害虫管理部に新戦力が入りました。

病害虫管理部の配属となりました、金枝 怜(かねえだ れい)と申します。黒石市出身です。これまで大学で特定のバラ切り花品種で頻発する奇形花(インカーブ花)の発生要因と対策の研究を行なっており、異分野からの参入ですが、心機一転しつつ、これまでの研究で培った諸々を活かして頑張ります。リンゴはバラ科の木本性植物かつ病害虫の種類が重なっていることからシンパシーを感じております。不束者ですがよろしくお願いしま



編集後記

十月から新人を迎えました、新たな視点で研究が進んでいくことが楽しみです。あわせて、りんご研ニュースも楽しみにしてください。(R)